

全く期待せずに出かけた宮崎県のパーマネントコース。しかしそこには光輝く美しい高原があった。

「えびの高原」コース
宮崎県 No.1 JOA公認 No.214
6.8 km 9 ポスト

宮崎県のパーマネントコース

鹿児島県、熊本県と接する宮崎県えびの市。その南部、霧島屋久国立公園の霧島地区に広がる火山群に囲まれた標高 1,200m の一帯がえびの高原です。

高原に広がるスキ野は 8 月下旬になると、硫黄山の硫気の影響で赤い絨毯を敷き詰めたような「えび色」に変わることから、「えびの高原」と名付けられたと言われています。

宮崎県のパーマネントコースは、県協会が法人未加入という事情もあり「行ってみなければ分からない」状況です。この日は、同じ霧島地区に設置されていた鹿児島県「牧園町保養センター」コースの調査に赴いたものの、

完全に消滅していることを確認。その足で県境を超え、えびの高原へと向かいました。昭和 48 年開設という宮崎県最古参コースのうえ、メジャーな観光地。利用されないコースが残っているとも思われず、期待度はゼロ。古いコピーのマップを手に、第 1 ポストを軽い気持ちで見に行きました。すると、驚いたことに現れたのは更新されて間もないような立派なポスト。喜び勇んでスタート地点のキャンプ村へ向かいます。

ゴールデンウィーク明けの平日とあって、キャンプ村は閑散としていました。小さな事務所を訪ね、管理人にマップを請うと何やら困ったような表情。着任して 2 年になるという管理人は、コースの存在は把握しているものの、マップは分からないとのこと。方々当たってはくれたものの、管理者には結局たどり着かず、「コースは変っていないはず」という言葉を信じ、持参したコピーを頼りに歩き始めることとしました。

スタート地点の「野外ステージ」は今も健在ですが、パーマネントコース

の案内板は見当たりません。

交差点近くの第 1 ポストを再確認後、えびのスカイラインを經由して、遊歩道に入ります。樹木のない、荒涼とした、高原の雰囲気満点の景色を貫く広々とした遊歩道。韓国(からくに)岳を仰ぎながら、あまりの視界のよさに、かえってこんなところにポストがあるのだろうかと思ってしまうほど。駐車場が間近に迫ってきても、それらしき姿が認められず、やはりないのかと思いつけた頃、西側の奥にある疎林の中に朱色を発見。相当目を凝らさないと見過ごしてしまいそうなところに第 2 ポストは置かれていました。

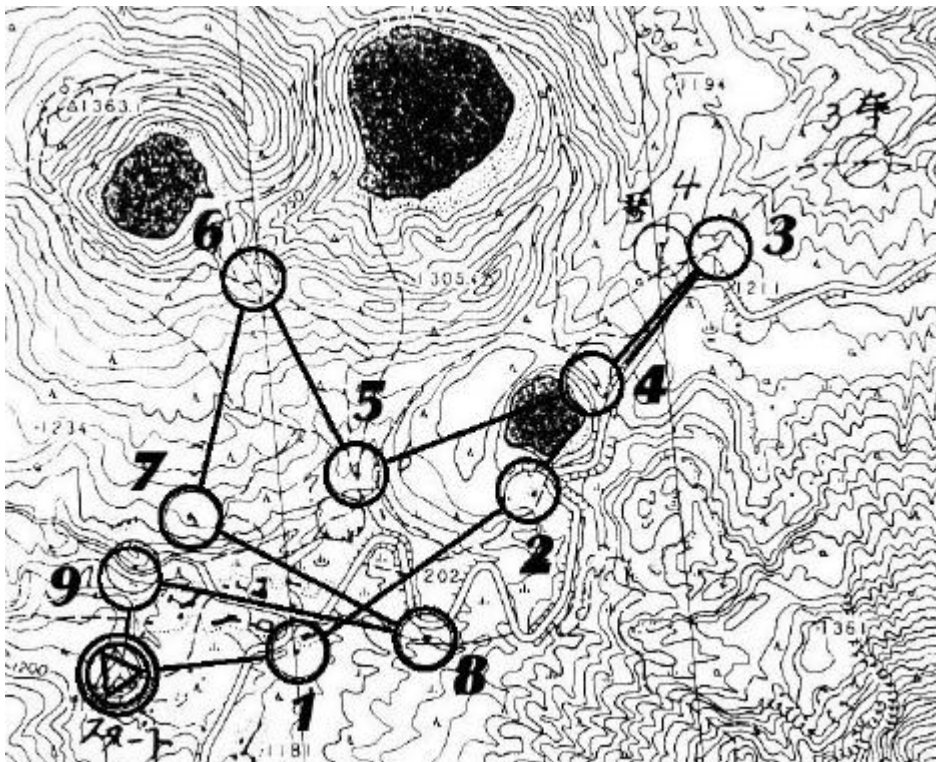
ポストのすぐ北側にあるのが「不動池」。周囲 700m のこの池は、火山の影響により、酸性度が強いと光の屈折により、鮮やかなコバルトブルーの水面を呈しています。コース中で私が最も気に入ったビューポイントです。

謎の第 3 ポスト

第 3 ポストは、私が持参したマップの位置から変更されていました。スカイラインから「甑岳」への自然歩道に入ります。至近距離の分岐にあるはずのないポストがあり、頭の中には「？」マーク。第 4 ポストが移設されたものと推測して、東の沢にあるはずのポストを目指します。

しかし、自然歩道は北側にある甑岳に向かうばかりで、行きたい東側へは一向に進んで行けません。仕方なくスカイラインに戻り、反対側からアタックしてみることに。観光スポットの露天風呂の前を過ぎ、緩やかな下り坂を進むと、カーブの連続する地点に差し掛かります。2 つめのカーブに小道の入口があるはずで、ここから入ればポストもすぐ分かるだろうと、わざわざ来てみたのですが、見事に骨折り損。地図にあるような小道などすっかり消滅しており、進入は不可能な状況です。迂回して入り込むことも憚られ、ここは諦め第 4 ポストを確認してから、現状を推し量ることにしました。

さて、先ほどの「謎」のポストまでもどり、すぐ西側の分岐にある第 4 ポストを目指します。たいした時間もかからずに着いてみると、そこにあったのはこれまでのものとは形状の異なるポスト。明らかにひと世代前のものと



変則的な形をしたえびの高原コース

思われることから、旧第3ポストと旧第4ポストを統合して、新第3ポストが先ほどの分岐に設置されたというのが正解なのでしょう。

ということで、持参したマップの第5ポスト以降は1つずつ繰上げとなります。第4ポストは再び「不動池」。自然歩道を緩やかに登り、突き当たるとそこは池の目の前。東にやや戻ると、ポストは池を終始見下ろすところに置かれています。

第5ポストへの道のりは長い

第5ポストに通じる道はこれまたありません。第2ポストを経由すれば南回りで行けないことはないのですが、ここはコース内最大の池、「六観音御池」をぐるりと回って第6ポストへ向かいます。実に快適な、開放感溢れる遊歩道に従って北へ。約1.5kmで「六観音御池展望台」と「六観音堂」に到達。ここも不動池同様、水面は鮮やかなコバルトブルー。秋の紅葉シーズンの景観がオススメのようです。更に10分ほど登ると、最も標高の高い「白紫池」が広がります。3つの池の中ではここは地味な存在で、水の色も平凡。さすがに足は止まりません。「白鳥山」をめぐる池の周回路との合流地点に第6ポストはあります。

飛ばした第5ポストは旧道をたどれば直接向かうことができるのですが、私はすっかり広い遊歩道につられて、このルートを見過ごしてしまいました。すれ違うハイカーに挨拶を交わしながら、何の疑いもなく遊歩道を下ると、真新しい展望台に到達します。第5ポストに向かっているつもりが、気付かぬうちに西寄りに下ってしまい、一瞬現在位置を見失いかけます。ところが、幸いだったのは、展望台の奥に頭の落ちたポストがあり、これが第7ポストだったのです。新しいポストでしたが、展望台を作ったときに壊されてしまったのでしょうか。

改めて第5ポストへ向かいます。「からくに荘」の手前までは歩道が通じていて、徐々に平坦な道をのんびり歩きます。ところが、ポストへのアタックは、橋のない小川を渡らなければいけません。慎重に川面に下り、対岸に渡ると第5ポストは目の前です。

第8ポストは「韓国岳」登山道を出戻ります。スカイライン沿いのルートから僅かに沢に下った地点です。

最終ポストは、県道30号線を西に進

み、キャンプ村へのアクセス道路に入ります。ほどなく道端でポストを確認することができるでしょう。

全く期待せずに出かけたえびの高原ですが、思いもかけず素晴らしいコースに出会うことができました。残念ながらマップが入手できず、合格点は与えられませんが、国土地理院の1:25,000地形図を入手し、ここで紹介しているマスターを写して、お出かけください。

(2004年5月6日 踏破)
(大高竜亮)

東日本大会宿案内

名鉄東岡崎駅に最も近い

岡崎・セントラルホテル

政府登録【(1164)国際観光ホテル】

〒444-0864 愛知県岡崎市明大寺町字耳取 34
TEL/ 0564-51-2830 FAX/ 0564-51-2969
E-mail/ info@okazaki-centoralhotel.com
URL/ <http://www.okazaki-centralhotel.com>